

# 淑女検定

☑ チャレンジテーマ

## 加賀ゆびぬき

ころんとしたフォルム、目を奪うほど鮮やかな色模様—。これはファッションリングではなく加賀に伝わる裁縫道具「加賀ゆびぬき」。こんなすてきな道具が手作りできたら、大人度もぐんと上がりそうだ。



問題 1 色鮮やかな加賀ゆびぬきはどんな糸で作られている？

- A. 絹糸
- B. 木綿糸
- C. 刺しゅう糸
- D. たこ糸

問題 2 加賀ゆびぬきの始まりは江戸時代。加賀友禅の“お針子さん”たちが作り始めた。その目的とは？

- A. 孫の成長を願い作った
- B. 弟子入りする新人に作った
- C. 自分のために作った
- D. 婚約指輪として作った



問題 3 加賀ゆびぬきは芯と絹糸の間に真綿が巻かれている。その理由とは。



- A. ふわふわにするため
- B. 針が突き抜けないようにするため
- C. 指を細く見せるため
- D. 通気性を良くするため

SBS学苑  
パルシェ校

今月の  
先生



【加賀ゆびぬき】講師  
石井 康子 いい やすこ  
(結の会主宰)

金沢に古くから伝わるゆびぬきの作り方を指導。小さいながらもみやびな伝統、美しさを伝える。

SBS学苑パルシェ校  
INFORMATION

9/30(土)14:00~16:00

生花のレイメイキング  
～スプレーバラのWILLI～

受講料/4,320円 材料費/4,320円

講師/大谷 幸生(レイメイカー-UMAHANA)

鮮やかなピンクのスプレーバラをラファイアで巻いて作る「WILLIスタイル」のレイ作り。

【お問い合わせ・お申し込み】  
Tel.054-253-1221

### 正解 & 解説

問題 1 → 正解 A

つややかさが特徴の加賀ゆびぬき。これらは絹糸でできている。元は加賀友禅の着物を仕立てる時に余った絹糸で作られたため、特有の色鮮やかさが反映されている。絹糸はメーカーごとに色味が違い、1000色以上ある。「伝統的な幾何学模様の糸の組み方が数学的でおもしろいって、男性の受講者もいらっしゃるんですよ」と石井先生。最近ではハートやサンタなど、オリジナルデザインも増え幅広い年代のファンを増やしている。

問題 2 → 正解 C

江戸時代、加賀友禅の仕立てを担う“お針子さん”が自分のために作ったことが始まり。自分の道具は自分で作る時代。江戸後期から大正にかけて盛んに作られたとされるが、実用品だったので、当時のものはあまり現存していない。当時のお針子さんは若い女性が多かったため、美しい模様を競って教え合ったという。嫁入りする仕事仲間結婚祝いとして贈ったりもしていたようだ。

問題 3 → 正解 B

加賀ゆびぬき本来の用途は、針仕事で指を保護するためのもの。針を貫通させない丈夫さが求められる。まず、指のサイズに合わせた芯を用意し、パイアステープを巻きつける。そこに葉書きなどの厚紙を巻いてくるむ。その周りに細長く引き出した真綿を巻く。真綿は繊維が細いので針を止めるのに役立つ。大きさを変えて作ると、帯留めやアクセサリとしても楽しめる。海外のお土産にも喜ばれるそうだ。